

ワークショップ 10

「消化管出血に対する診療の進歩」

司会 貝瀬 満（日本医科大学消化器内科学）

消化管出血は common disease だが、重症化するため適切な管理が求められる。超高齢化と疾患構造の変化に伴い、原因疾患や診療対応も変わりつつある。上部消化管出血では薬剤起因性潰瘍への対応が求められ、IVR を要する重症も未だみられる。下部消化管出血では緊急大腸内視鏡の必要性は未解決であり、大腸憩室出血ではより有効な内視鏡的止血術が求められている。本ワークショップでは、上部・小腸・大腸出血を対象に、診断・治療ストラテジー、診断法・内視鏡的止血術の工夫、抗血栓薬の管理など、様々な切り口の演題を応募いただき、日常診療に役立つセッションにしたい。